区分・種別	重要文化財(建造物)		
名　　称	旧山中家住宅（きゅうやまなかけじゅうたく）　１棟		
所　在　地	上浮穴郡久万高原町上黒岩1032		
所　有　者	久万高原町	管 理 団 体	
指定年月日	昭和45年6月17日		
解　　説	旧山中家住宅は、もと愛媛県宇摩郡別子山村にあったが、旧美川村（現久万高原町）が譲り受け、現在の地に昭和50（1975）年移築復元したものである。 この民家の由緒ならびに建築年代については明らかでないが、細部手法から推定すると18世紀中期～末期ころに建てられたもので、とくに土間がせまく、部屋を１列にならべる間取りは、四国中央山地における民家の一典型として重要なものである。 この住宅は、桁行７間（14.4m）、梁間３間半（7.7m）入母屋（いりもやづくり）造の茅葺（かやぶき）であり、向かって左側に出入口をとる。平面は間口を三分し、西（一番上手）に「ザシキ」をおき、南に床の間と押入れがある。中央に「オモテ」をとり、この２室の北側（正面）に縁を配している。一番東には「チャノマ」を配し、その南に「オク」をとっている。「チャノマ」東北寄り１間半に半間突出しの土間がある。		